



東成瀬村地域おこし協力隊としての日々

澤屋敷 海

(東成瀬村地域おこし協力隊)

1 東成瀬村との出会い

私はもともと岩手県で会社員をしていました。ごく普通のサラリーマン生活を送っていたのですが、あるとき東成瀬村の人たちとつながる機会があり、何度か村を訪れる中でこの土地の魅力に引き込まれていきました。山菜やきのこを採り、溪流で魚を釣り、その場で料理して味わう。自然の恵みを存分に楽しむ暮らしに触れ、

「こういう生活がしたい」と本気で思うようになりました。そして意を決して移住し、地域おこし協力隊としてこの地で新たな人生をスタートさせました。

移住してからの生活は、未経験の連続でした。自然を相手にする日々は思い通りにいかないことも多いですが、その分だけ学びや喜びが大きく、新鮮な日々を過ごしています。朝、窓を開ければ霧に包まれた山々が広がり、夜には満天の星空が静かに降り注ぐ—そんな日常が当たり前になっていくたびに、ここに来てよかったと心から思います。



(自宅からの夕焼け)

2 山奥のキャンプ場へ

現在、私の地域おこし協力隊としての主な活動は、村の最奥部にある「須川湖キャンプ場」の運営と管理です。須川湖は、標高1,000メートルの高地に位置し、周囲をブナの原生林に囲まれた、まるで絵の中にいるような静かな湖です。特に印象的なのはその透明度で、水面をのぞき込むと湖底まで見通せるほどの澄んだ水が広がっています。晴れた日には、湖面が鏡のようになり、周囲の山々や青空を美しく映し出します。風が止むと、水面がまるで静止したかのように反射し、その幻想的な風景は訪れる人の心を静かに揺さぶります。



(須川湖の様子)

この須川湖の周辺には、野鳥や高山植物の観察に訪れる人や、栗駒山の登山者が行き交います。登山を終えた人が疲れを癒しに立ち寄るスポットとしても知られており、近隣には須川温泉、やまゆり温泉、なるせ温泉といった名湯が点在しています。さらには、山中から湧き出る天然水「仙人水」も多くの人に愛されています。

冷たくて澄んだその水は、一口飲めば体の芯から清められるような気持ちになります。

須川湖キャンプ場での仕事の本格始動は、昨年度からでした。とはいえ管理者は私ひとり。草刈りや設備点検、清掃、広報、問い合わせ対応など、すべてを自分の手でこなさなければならず、正直、手探りの連続でした。また、施設の大規模改修などは県の管轄であるため、自分の裁量だけでは動かせないことも多く、もどかしさも感じました。それでも利用者からは「こんなに静かで涼しいキャンプ場は初めて」、「湖面が美しく感動した」といった声を多数いただき、この場所が持つ力を改めて実感しました。



(キャンプサイトのすぐ横はブナ林)

今年度は、これまでの経験を踏まえて、より本格的な運営を目指しています。まず、昨年まで停止していたボートの貸し出しを再開し、須川湖ならではの湖上体験を多くの方に提供していきます。ボートから眺める湖畔の景色や、水上からしか見ることのできない風景は、きっと特別な思い出になるはずです。さらに、ツーリングキャンプイベントも計画中で、アウトドア愛好家が集う場を作り、須川湖の新たなファンを生み出したいと考えています。

3 協力隊退任後の暮らし

こうした活動を進める上で、私が最も大切にしているのは「人との関わり」です。東成瀬村

は人口が2,200人ほどの小さな村ですが、その分、人と人との距離がとても近いことが特徴です。挨拶ひとつ、ちょっとした声かけや手伝いが、人と人とのつながりを深めていきます。日々地域の人たちに支えられて生きていますし、地域の方の協力なしではできないことが数多くありましたが、これからは支える側として地域の力になりたいと思います。

協力隊の任期が終わった後の進路については、まだ明確には決まっていません。ただ一つ言えるのは、「この村で生きていきたい」という気持ちです。農業なのか、観光分野なのか、あるいは人手が足りないところを横断的にサポートするような役割なのか、形はまだ定まっていませんが、地域の中にある“困りごと”や“取り残されている部分”を拾い上げ、自分なりに補っていきたいと考えています。



(他協力隊員の田植えイベントにも参加)

地域おこし協力隊としての活動は、自分自身を見つめなおすきっかけとなり、地域と深く出会ういい機会となりました。須川湖を起点に、東成瀬村の魅力をもっとたくさんの人に伝えていくこと、それが今の私の目標です。この素晴らしい場所で、自然とともに生き、地域とともに歩む暮らしを、これからも大切にしていきたいと思っています。